

事務局便り



事務局長 柳田 克敏

平成17年度定時総会が終了し1ヶ月が過ぎました。役員改選により会長を始め何人かの方が退任され、新しい陣営で平成17年度のスタートをきったのですが、事務局も総会後の処理事項がやっと一段落ついた気がしております。しかし、部会が次々に新企画を打ち出し活発に活動を開始しておりますのでゆっくりという時間をどこかに忘れてきたようです。忙しさにかまけて先延ばししてきた仕事もいくら何でももう取りかからなくては、怖い催促が来る前にと思いながら慌てて書類を作っています。自分自身振り返る暇もないようにありましたが、月日のたつのは早いもので、もう今年も梅雨明けの季節になりました。例年梅雨明けに天上の雨が降りきってしまうような土砂降りがあって、夏が来るというパターンでしたがここ3年位、いつあけたのかはっ

きりしない梅雨明けとなっています。この梅雨明け前の土砂降りで思い出すのが、熊本での集中豪雨で土砂災害であった時の話。現場で民家が数件埋まってしまい、生き埋めになった人の亡骸を探す為に土地家屋調査士が現場復元をなし、1年後にようやく見つけ出したとの記事を見ました。回りの地形が全く変わってしまっている中で、10メートル位深さの土砂の下から埋まった民家を特定し亡くなられた方を見つけ出すこと、分かる人には難しいことではないかもしれませんが、この様な仕事もできるんだと感動しながら記事を読みました。土地家屋調査士の仕事の新たな一面を見つけたようでなんとなく嬉しかった想いです。

今日梅雨が明けました。暑い夏が続きます。体調に十分気を付けて頑張りましょう。



会 務 報 告

第1回常任理事会議事録

1. 日 時 平成17年4月5日(水)
13:00~16:30
2. 場 所 調査士会館
3. 出席者 河野会長、平田副会長、
山下副会長、鎌田理事、
富田理事、谷口理事、養原理事
4. 議事録署名者 富田理事、谷口理事
5. 会長挨拶
お忙しい処お集まりいただきましてありがとうございます。第1回常任理事会を開催いたします。
6. 議 事

- (1) 平成17年度第50回定時総会資料の検討について

(河野会長が議長となり議事を進行する)

- ① 総会の司会者は18日の理事会で決定する。
- ② 会次第のうち、議長については日向支部の坂口栄会員、副議長を児湯支部よりお願いする。

- ア 第1号議案 平成16年度会務報告並びに事業経過報告(案)

未記入箇所、訂正箇所について確認の上正確を期することとの指摘があった。

- イ 第3号議案 平成16年度一般会計収支決算書(案)

(富田財務部長より別紙により説明)

繰越金から見ると、会費値上げについて会員に納得させる説明が必要だとの意見があったが、経費削減に努力した結果であり研修会の増加を考えるとやむを得ない状況であると述べた。

- ウ 第4号議案 平成16年度事業計画(案)
河野議長は「事業計画案」は次回の理事

会までにつくると述べた。富田財務部長はトラバース会、九B協議会、日調連のゴルフに参加する会員が少なくなったと述べ親睦会としてのソフトボール大会開催を考えている。昨年度の予算と比較し印刷費総務費など増額を要する科目についてを個別に検討した。

谷口業務部長より重ね図変換についてのソフト開発費の予算要求があった。

養原広報部長は「50周年記念誌」発行について原案を示した。表題及び表紙について形ができてから検討をすることにした。

- エ 第5号議案 一般会計収支予算書(案)、特別会計収支予算書(案)及び役員退職引当金収支予算書案について富田財務部長が説明した。

(富田経理部長より別紙により説明)

鎌田総務部長は新しい企画に費用を配分すべきである。GISソフト(資料蓄積)、相談センターの立ち上げ、非調査士実態調査の実施に予算をつけて欲しいと要望した。養原広報部長は50周年記念誌の原稿投稿者に謝礼を考えたいと述べた。

以上の議案について、本日の検討結果を基に18日の理事会で調整することにした。議長は午後4時30分閉会を宣した。

平成17年4月5日

議 長 河 野 俊 治

議事録署名者 谷 口 和 隆

議事録署名者 富 田 美 利

理事会議事録(第1回)

1. 日 時 平成17年4月18日(月) 13:00~17:00
2. 場 所 調査士会館
3. 出席者 河野会長、平田副会長、山下副会長、鎌田理事、富田理事、谷口理事、荻原理事、小柳理事、尾崎理事、福岡理事、魚矢理事、川口理事、小林理事
4. 議事録署名者 谷口理事 富田理事
5. 会長挨拶
皆さんご苦労様です。鎌田理事が少し遅れるが総会資料の検討から始めたいと思います。
6. 議 事
 - (1) 平成17年度第50回定時総会資料の検討について
当日の役員の集合時刻は8時30分とする。
ア 司 会 者 小林理事
副司会者 魚矢理事
イ 倫理綱領読上げ 魚矢理事
黙祷は20秒
ウ 議長・副議長については日向と児湯とし、議長は坂口栄会員。
エ 表彰受賞者の予定者は別紙のとおり。謝辞は法務局長関係を宮崎成雄氏、調査士関係を小畑雅嗣氏で本人了解済み。
 - オ 第1号議案
平成16年度会務報告並びに事業報告
別紙資料により河野議長が朗読。
 - カ 第2号議案 各種委員会報告
各委員長及び部長、報告予定。
 - キ 第3号議案 平成16年度収支決算承認について
別紙資料により一般会計・特別会計を富田財務部長より説明。
 - ク 監査報告 宮田監事報告予定
 - ケ 総会での昼食 5月に入った後会館にて打合せをする。
 - コ 第4号議案 平成17年度事業計画(案)について
河野会長並びに各部長より説明。別紙

資料により一般会計・特別会計を富田財務部長より説明。

① 鎌田総務部長は非調査士実態調査の結果を生かすために追求していく。

② 富田財務部長は本年度のトラバース会は日向市の担当だが宮崎市周辺で会場を探す。九Bゴルフは6人参加の予定、その他日調連のゴルフもあるのでしっかり取り組んでいきたい。

③ 谷口業務部長は不登法改正について研修会の充実を図っていきたい。

④ 荻原広報部長は記念誌発行は6月予定と変更したい。

サ 第5号議案 平成17年度収支予算(案)について

シ 第6号議案 「会則」の改正、(会費の値上げについて)

富田財務部長は予算は会費値上げをした場合のものであり、総会で否決されれば予算案を組み直す必要があると会場に提案した。福岡理事は「自家共済が6月で廃止となり7月から半分負担の分が浮くのではないか。決算の状況からも会費値上げは難しい。」河野会長は「手当をしておかないとやれるものもやれない」と発言採決の結果全会一致で本案を総会に提示することにした。

ス 諸規則の制定について

① 谷口業務部長は総会資料により改訂調査・測量実施要領の一部改正を報告した。改訂版は自動的に位置づけされていると判断していいのかと述べた。

② 鎌田総務部長は紛議の調停に関する規則、及び紛議の調停に関する細則の一部の変更と職印証明書規程の新設について説明した。苦情相談についての費用を取るか取らないかを審議した。紛議調停委員会の後生を8人以上13人以内とする。申し立て費用を3万円とする。常設委員会なので委員手当を一人5000円位付けないといけないし、事件が発生した場合実費を支払うことと

提供を受ける。③ 富田財務部長は研修活動補助規程を

新設し一人2万円限度で年間12万円の経費を計上する。旅費規程の一部を実状に合わせた改正を行う。

用紙の変更に伴う在庫用紙B5の交換は原則しない。調査書のみ交換できる。

セ 役員の改選について
 今月25日までに立候補の締切を告示している。河野会長は今期限りで退任を表明し、是非だれかが引き受けて欲しいと述べた。

(2) その他

① 総会資料は5月の連休の前に発送すること。

② 竹下益就会員に対する法務大臣表彰は日調連定時総会に行われる。

③ 総会当日は、常任理事は9時00分会場に集合を申し合わせ。

④ 次第の時間配分
 ア 3号議案(16年度収支決算報告)までを、12時までに終了させる。

イ 1時間食事、休憩

ウ 4号議案(17年度事業計画)より6号議案(会則改正)までを一括上程

エ 閉会の言葉を17時00分に終了させる。

オ 懇親会の司会を小柳理事と富田理事にお願いする。

※ 議事を4時30分頃に終了し日調連副会長の待野貞雄氏に日調連の現状報告をお願いする。

以上、本日の議事を全て終了し議長は午後5時閉会を宣した。

平成17年4月18日

議長 河野 俊 治

議事録署名者 谷 口 和 隆

議事録署名者 富 田 美 利

平成17年度総会議事録

1. 総会の種類 第50回定時総会

2. 開催の日時及び場所

平成17年5月20日(金)10時~17時

ウェルシティ宮崎(宮崎厚生年金会館)

3. 会員現在数 202名

4. 出席会員総数及び議決権数

実際出席数 127名 委任出席数 47名

合 計 174名 議決権数 174個

5. 来 賓

宮崎地方法務局長 平 野 英 雄 氏

〃 首席登記官 江 口 徹 氏

〃 総務課長補佐 長 野 員 隆 氏

〃 庶務係長 崎 村 和 洋 氏

日本土地家屋調査士会連合会副会長

待 野 貞 雄 氏

宮崎県司法書士会会長

長 友 克 吉 氏

宮崎県行政書士会会長

白 土 和 明 氏

宮崎県公共嘱託登記司法書士協合理事長

押 川 明 幸 氏

宮崎県公共嘱託登記土地家屋調査士協合理事長

土 屋 洋 二 氏

宮崎県土地家屋調査士政治連盟会長

城 脇 一 男 氏

6. 議 案

第1号議案 平成16年度会務報告並びに

事業経過報告

第2号議案 各種委員会報告

(1) 綱紀委員会

(2) 境界鑑定委員会

(3) 苦情相談委員会

(4) 紛議調停委員会

第3号議案 平成16年度収支決算報告

(特別会計を含む)の承認について

(監査報告)

第4号議案 平成17年度事業計画(案)に

ついて

第5号議案 平成17年度収支予算（特別会計を含む）について

第6号議案 「会則」の改正について

(1) 会費の値上げについて

第7号議案 「役員選任並びに選挙規則」

の改正について

(1) 予備綱紀委員の選任について

第8号議案 役員選任について

第9号議案 その他・報告事項

7. 議事の経過及び結果

(1) 開 会

平田登基美副会長が開会を告げた。

(2) 土地家屋調査士倫理綱領斉唱

魚矢会員に続いて全員で、土地家屋調査士倫理綱領の斉唱を行った。

(3) 物故会員のために黙祷

司会者の音頭により、物故会員に対する冥福の黙祷を行った。

(4) 新入会員紹介

酒匂尚彦会員 中山恵会員 伊東進会員
崎村亮太会員 小城信也会員
妹尾英二会員 吉田孝昭会員

(5) 会長挨拶

宮崎県土地家屋調査士会会長
河野俊治

(6) 表彰

(福岡法務局長表彰) 宮崎成雄会員
(宮崎地方法務局長表彰) 湯地達也会員
関谷文雄会員 奥保雄会員
中村幸一会員 工藤義信会員
(日本土地家屋調査士連合会会長表彰)

白土和明会員 小畑雅嗣会員 岩野秀子会員
(宮崎県土地家屋調査士会会長表彰)

佐山武廣会員 古川人司会員 大塚寛美会員
魚矢隆文会員 假屋憲幸会員 土屋洋二会員
徳澄忠晴会員 村川憲正会員 津野敏明会員
受賞者を代表して宮崎成雄会員と小畑雅嗣

会員が謝辞を述べた。

(7) 来賓紹介

(8) 来賓祝辞

宮崎地方法務局長 平野英雄氏
日本土地家屋調査士会連合会副会長

待野貞雄氏

(9) 祝電披露

日本土地家屋調査士会連合会会長祝辞

日本土地家屋調査士会連合会

九州ブロック会長祝辞

何れも司会者が代読した。各県調査士会

長祝辞は割愛。

(10) 議長・副議長選出

司会者が総会に諮ったところ、執行部一任との声がかかり、次の通り指名、承諾し議長より就任の挨拶があった。

議長 坂口栄会員 副議長 田嶋信雄会員

(11) 議事録署名者、同書記選出

議長は、議事録署名者、同書記を慣例により議長が指名する旨の可否を総会に諮ったところ異議がなかったので、以下の通り指名し、会員の承諾を得た。

議事録署名者 井上洋之会員 金丸敏雄会員
同書記 後藤泰孝会員 柳田克敏事務局長

議長が議事に入る前に第1号議案から第3号議案並びに監査報告を一括上程し又、第4号議案から第6号議案までを一括上程し、それぞれ審議することを諮って承認された。宮崎支部白土和明会員から緊急動議として提案があり、議長は議事とするかどうかを議場に諮った。出席会員101人動議として賛成の会員53人によって動議として提案することとした。

(12) 議 事

議長は第1号議案から順に執行部および各種委員会の責任者の説明を求めた。

第1号議案 平成16年度会部報告並びに事業経過報告

総括を河野俊治会長が説明し、詳細を総会資料に沿って総務部長鎌田隆光 業務部長谷口和隆 財務部長富田美利 広報部長養原照光がそれぞれ説明した。

第2号議案 各種委員会報告

・綱紀委員会委員長松元光晴が2件の調査依頼があり1件は終了し1件は報告書作成中であるとの事を説明した。

・境界鑑定委員会 鑑定委員会委員長白土和明が10回に渡る境界鑑定中級講座を無事終了したことを報告した。講座の重要性から今後も継続して講座を開催したい旨を述べた。

・苦情相談委員会 委員長平田登基美から数件の苦情が寄せられたとの報告があり各支部長が対応したと報告した。

・紛議調停委員会 鎌田総務部長は委員会はまだ実働していないと報告した。

第3号議案 平成16年度収支決算報告(特別会計を含む)の承認について
説明を財務部長富田美利が總會資料(収支決算書)に沿って説明した。
続いて監査報告を監事宮田正志が報告した。

議長は第1号議案、第2号議案、第3号議案及び監査報告について質疑を受けた。議場から質問がないため、議長は質疑を打ち切り、本議案の賛否を諮ったところ、出席会員の過半数の賛成を得た。よって議長は「第1号議案、第2号議案、第3号議案及び監査報告は原案の通り議決された」とした。

第4号議案 平成17年度事業計画(案)承認の件

第5号議案 平成17年度収支予算(案)承認の件

第6号議案 「会則」の改正について
(1) 会費の値上げについて
議長は、第4号議案、第5号議案、第6号議案が相互に関連するので一括上程したいとして執行部に同議案に関する説明を求めた。平成17年度事業計画(案)の基本方針を河野俊治会長が説明し、各部の詳細を總會資料に沿って、総務部長鎌田隆光、業務部長谷口

和隆、財務部長富田美利、広報部長荻原照光がそれぞれ説明した。第6号議案について富田財務部長は法制度改正に伴う研修会の開催、各種委員会の活性化など、経費予算編成に支障があり会費の値上げを提案すると述べた。議長は第4号議案、第5号議案、第6号議案について「各議案は関連しており第6号議案は会則改正案件であるため特別決議が必要です。議決権の過半数をもって一括して採決致します。」と発言し議場から質疑を受けたところ、宮崎支部竹下会員が「会費の値上げについて根拠が薄い、経費の節減でカバーできるのでは」と発言し、印刷費や渉外費、各部会費等についての経費の軽減、トラバース会の特別会計での処理を提案した。富田財務部長は「制度が大きく変わりつつあり、前年度に増して研修会を開催する必要がある、予算的に非常に苦しくなる。又、各予算については極力節約してる」と本案の必要性を述べた。議長は本議案の採決の前に、特別議決に必要な定足数及び委任状の取り扱いについて、会場を封鎖し現在の出席者数を再度確認し、定足数を満たしていることを議場に報告した。その後、本議案の賛否を議場に諮ったところ、出席会員の過半数の賛成で原案のとおり議決された。都城支部児玉防人会員から「總會出席の旅費支給をすること」と提案があり、議場に諮ったところ、過半数の賛成で本年度總會から旅費の支給をすることに決定した。

第7号議案 「役員選任並びに選挙規則」の改正について
(1) 予備綱紀委員の選任について、総務部長鎌田隆光が説明した。總會資料の訂正を別紙にて配布し議案として予備綱紀委員1名は宮崎、児湯から選任す

ることを議場に諮ったところ満場一致で議決された。

第8号議案 役員選任について

鎌田総務部長は「本年度は役員の改選期に当たりますので選挙管理委員会から説明致します。」と述べ、直ちに選挙管理委員会は議場前列に集まった。武藤幸二選挙管理委員会委員長は「選挙告示期間中に次の会員が立候補した。」と述べて下記の候補者を発表した。

推薦候補者 会長 松浦 正展
副会長 荻原 照光
〃 鎌田 隆光
監事 酒井 弘
〃 宮田 正志
予備監事 平田登基美

議長はこれを受けて他に立候補がなかったとして総会に諮り候補者を当選者とし、本人もそれぞれ就任を承諾した。

理事、綱紀委員、予備綱紀委員については選挙規則第33条第1項により、各支部から候補として報告された下記会員が推薦されたので総会の承認を得て当選者となり、本人も承諾した。

理 事

(宮崎支部) 富田美利会員 谷口和隆会員
松崎靖尚会員

(児湯支部) 衛藤哲郎会員

(日南支部) 工藤義信会員

(都城支部) 大重智成会員 魚矢隆文会員

(木場支部) 小柳誠次会員

(日向支部) 北山高之会員

(延岡支部) 稲葉 博会員

綱紀委員

(宮崎支部) 松元光春会員

(都城支部) 茶木久敏会員

(日南支部) 豊饒彰彦会員

(日向支部) 佐藤金夫会員

(延岡支部) 杉野順一会員

予備綱紀委員

(児湯支部) 徳田公生会員

選挙管理委員長は、全役員の選挙が終了したことを告げ、委員会を解散した。

第9号議案 その他・報告事項

鎌田総務部長は「紛議の調停に関する規則の変更及び職印証明書規程の新設について説明した。富田財務部長は旅費規程の一部変更について説明した。河野会長は特定認証局立ち上げの経過と7月から徴収する負担金について別紙を配布し説明した。

第10号議案 緊急動議としての「会則一部改正の件」(会則92条の調測要領の会則位置づけを削除)について (別紙)

白土会員は「調測要領の会則への位置付けは調査士を自ら縛るものではなくすべき」と述べ谷口業務部長は「調測要領の位置付けは決して強制的なものではない。調査士として当然に努力すべきものであり、基準として必要である」と答弁した。議長は「欠席の会員が多く重要な案件であるので採決は難しい。後1年新しい執行部で審議し会員が納得できる結論を出してください。」と述べて、議場もこれを同意した。この他、質問がなかったもので議長は質疑を終了した。議長より新旧役員の挨拶を求められ河野会長が退任の挨拶をなし、続いて新会長松浦正展が就任の挨拶をした。

8 議長、副議長退席

議長及び副議長は退任の挨拶を行い降壇した。

9 その他 日調連副会長 待野貞雄氏が連合会の近況について解説を行った。

10 閉 会

山下尚喜副会長は、午後5時10分本日の総会次第はすべて終了した旨を告げた。

平成17年5月20日

平成17年度第1回九州ブロック 協議会会長会議報告

会 長 松浦 正展

(一日目)

日 時 平成17年6月4日 18:00~21:00

場 所 ホテルニューオータニ佐賀 楊柳亭

出席者 九B役員 阿部 重信会長

下川 健策副会長

杉山 勇副会長

各県会長 中村 邦夫(福岡)

水竹 亦雄(佐賀)

相沢 治典(長崎)

西龍 一郎(熊本)

坂元 均(鹿児島)

金城 榮秀(沖縄)

中村 宏道(大分)

松浦 正展(宮崎)

議 題

1. 九州ブロック協議会役員選任の件

会 長 中村 邦夫(福岡)

日調連総会で議長を務める。6

月10日四国B総会に出席

副会長 水竹 亦雄(佐賀)(当番会が
就任する。)

事務局長 会長推薦 猿渡英次(福岡)

監 事 小笠原光一(大分)(次回当番
会が受け持つ。)

今回は会長とダブルなので次々回
の大分が就任

2. 日調連役員選任の件

理事2名 馬場 幸二(鹿児島)日調連
で勉強したい。

高木 昭次(熊本)再任 河野俊治要望
あり。

3. 平成17年度定例総会進行について

懇親会の乾杯

福岡管区主席登記官 音山 啓二

万歳三唱

中国部ブロック会長 下田 敬三

4. 平成17年度事業計画について

5. 総会進行 説明者を決める。

6. その他

九B役員退席 新会長だけで協議する。

日調連役員選挙 九州から九B副会長下

川健策を日調連副会長候補として推す。

三月の会長会議で決めたことを承認した。

(二日目)

日 時 平成17年6月5日 9:00~12:00

場 所 ホテルニューオータニ佐賀 有明

協議事項

日調連役員候補について

副会長候補 下川健策をプロ推薦する。

各県会長の推薦状を持って各ブロックを福
岡会が回る。

推薦状に署名し、押印は福岡の副会長が持
ち回る。宮崎6/7

6/23前泊、意思統一して日調連総会に臨
む。

日調連代議員 福岡5 熊本3 鹿児島3

長崎2 佐賀2 宮崎2

大分2 沖縄2

+理事2+1 合計24票

平成17年度日調連九州ブロック 協議会総会報告

会 長 松浦 正展

日 時 平成17年6月5日13時00~17時00

平成17年6月6日8時45~12時00まで

場 所 ホテルニューオータニ佐賀 セふり

(一日目)

セレモニーのみ。

来賓挨拶

福岡管区法務局長、佐賀法務局長、

西本日調連会長、

佐賀県知事代理 県土づくり本部長(土木部長)

佐賀市長 不要市有地、法定外の売却で調
査士に世話になっている。

西日本ブロック会長

(中部、近畿、中国、四国)

(二日目)

議長選出 水竹佐賀県会長

議事録署名者指名 佐賀会の副会長二名

会務報告 杉山九B副会長

議 事

- 第一号議案 平成16年度決算報告、
中村事務局長（大分）
監査報告 水竹佐賀会会長
- 第二号議案 平成17年度事業計画案
阿部九B会長（大分）
- 第三号議案 平成17年度予算案 中村事務局長
予算総額7,064,097円
- 第四号議案 次期当番会決定の件 福岡会
- 第五号議案 九州ブロック協議会役員選任の件
会 長 中村 邦夫 福岡会
副 会 長 水竹 亦雄 佐賀会
監 査 小笠原光一 大分会
事務局長 猿渡 英次 福岡会
- 第六号議案 日調連役員推薦の件
副会長候補 下川 健策
福岡会前会長
理事候補 高木 昭次 熊本会
（固辞されたが再度要請）
馬場 幸二 鹿児島会
監事候補 杉山 勇
長崎会前会長

以上審議可決した。

自由討論

- ・組織は財政基盤がしっかりしていないといけない。不景気に自己投資できない組織は伸びない。連合会費 調査士は月1250円、司法書士は月3500円である。
- ・研修、個人情報保護法、筆界特定制度など担当者と直接メールのやりとりをしたい。
- ・筆界特定制度は6ヶ月で処理する。鑑定能力、法律的な表現が必要になる。
- ・調査員は能力ある会員を会長が推薦することになる。
- ・報酬額が削除され、調査士は手足をもちがれた。たたき売りする会員が後を絶たない。このままでは会員は半減するだろう。受験生が減少している。由々しきことである。

理事会議事録（第2回）

1. 日 時 平成17年度6月10日（金）
13:30～17:00
2. 場 所 調査士会館
3. 出席者 松浦会長、鎌田副会長、
養原副会長、谷口理事、富田理事、
松崎理事、衛藤理事、工藤理事、
魚矢理事、小柳理事、北山理事、
稲葉理事
4. 議事録署名者 松崎理事、富田理事
定刻にいたり、松浦会長は議長席に着き次のように挨拶をし続いて議事に入った。「皆さんご苦勞様です。6月4日から5日にかけて、私と鎌田副会長と九B協議会平成17年度定時総会へ出席して参りました。会長会に初めて出席し西本連合会会長から我々業界の厳しさを聞き真剣に取り組まないと大変だと思った。協力をお願いします。」
続いて議事に入った。
5. 議 事 （特選議1、筆界特定）

- (1) 日調連九B協議会定時総会並びに第1回会長会の報告
- (2) 平成16年度定時総会の反省について
- (3) 理事役割分担の決定（各部の構成）
- (4) 各部会の開催と部会の報告について
- (5) 平成17年度日調連定時総会代議員の選出について
- (6) 今後の日程の確認と検討について

第1号議案 日調連九B協議会定時総会並びに第1回会長会の報告

松浦議長は別紙会長会、総会の報告書を配布し説明した。今期各県の会長は熊本を除いて全部入れ替えになった。連合会の副会長に九州の代表として福岡会の下川健策氏を推すことにした。

谷口理事は下川氏を推薦するからには九州の為に仕事をして欲しいと述べた。

新理事が個人別に自己紹介をした
第2号議案 平成16年度定時総会の反省について

鎌田副会長は定時総会の中での質問や意見について、一番大きな意見として白土会員が提案した「調測要領の会則への位置づけ」であると述べ、松浦議長は今後の理事会の場で検討して方向性を決めたいと述べた。意見集約は時間をかけて、罰則の不安感を煽らないことが意見として出た。表彰について受賞者は出席できる人を、欠席の場合代理受領の人を準備しておくこと。新入会員の出席について、欠席者に注意した。

第3号議案 理事役割分担の決定(各部の構成)

議場は検討の結果下記の役割分担を決定した。

副会長 鎌田 隆光(総務、業務兼任)

副会長 荻原 照光(財務、広報兼任)

総務(部長 松崎靖尚)

担当理事 小柳誠次、大重智成)

業務(部長 北山高之)

担当理事 魚矢隆文、稲葉 博)

財務(部長 富田美利)

担当理事 工藤義信)

広報(部長 谷口和隆)

担当理事 衛藤哲郎)

谷口理事は境界鑑定委員会の委員長は白土現委員長をお願いすることとし本人にも了解を受けていると述べた。

第4号議案 各部会の開催と部会の報告について

松浦議長は第6号議案今後の日程の確認と検討についてと併せて事務局に今後の予定表を作成し各理事に配信するよう指示した。その予定表に沿って各部会の開催を計画するようになった。

第5号議案 平成17年度日調連定時総会代議員の選出について

松浦議長は日調連総会には会長と鎌田副会長の2名が出席する。連合会会長選は松岡氏と椎橋氏の一騎打ちで接戦になっている、副会長は6人が立候補していると報告した。

第6号議案 今後の日程の確認と検討について

毎年の業務は決まっているものが多いので

4号議案と併せて検討する。

第7号議案 その他

富田財務部長は自家共済検討委員会を年3回程度9月12月2月頃に開催し、その意見を集約し理事会に諮って取り決めをしていきたい。あくまでも止めずに続ける方向で進めて参ります。

平成17年6月10日

議長 松浦 正 展

議事録署名者 松崎 靖 尚

議事録署名者 富田 美 利

第1回支部長会議議事録

1. 日 時 平成17年7月8日(金)

13:30~17:00

2. 場 所 調査士会館

3. 出席者 松浦会長、松崎総務部長、
上田議長、橋口、落丸、荻原、
小柳、北山、稲葉各支部長

4. 議事録署名者 橋口支部長、荻原支部長

5. 議 事

松浦会長は「不登法改正など大変な時期に会長になった。」と会員の協力を要請し日調連の経過報告をなし、今後2年間で勝負の時期であり、オンライン申請システムの構築には、積極的に協力する体制で臨みたいと挨拶をなした。

(1) 各支部長自己紹介

3人の支部長は留任で4人が新任の支部長という配分となり、それぞれ挨拶をなした。

(2) 議長、副議長選出

松崎総務部長は本年1年間の支部長会の議長、副議長の選任を要請した。議場はこれを受けて審議の結果、議長に日南支部の落丸支部長を副議長に宮崎支部の上田支部長を選任し、それぞれの任を受諾した。

(3) 県会業務報告・予定業務報告

松崎総務部長は別紙の業務一覧を提示し

説明した。北山業務部長は境界鑑定委員会委員の増員について、各地区から最低1名の委員選定が必要であると述べて、理事会に規則の改正を諮りたいと報告した。また調査・測量実施の関係から早期の結論が得たいと、各支部の候補者の内諾を得て欲しいと要請した。また、法定外公共物の取り扱いについても各支部の意見を収集するよう要請した。

(4) 各支部業務報告・予定業務
児湯支部 まだ活動なし 予定として総務厚生が法務局と協議をしたいがもう少し様子見である。8月8日潮干狩りを予定、報酬額にはさわれない。

小林支部 今月22日に法務局と会議の予定
都城支部 5月22日支部役員会 役割分担
5月25日法務局と事務打合せ 9項目要請希望

6月24日法務局と全地求積測量の件打合せ

日向支部 6月17日法務局と公嘱合同研修会
6月19日法務局と全地求積測量の打合せ

延岡支部 いま全地測量、オンライン申請に対する対応について法務局と打合せ予定。支部では今まで連絡方法を回覧しておいたが、今後はファクスかメールを活用する。

宮崎支部 今まで役員会を4回開催
6月18日新人研修開催
8月6日ソフトボール大会開催を予定
筆界特定等研修会の必要がある。

日南支部 7月14日法務局と勉強会を開催する。内容は電子基準点の表示方法について

(5) 調査・測量実施要領について
松浦会長、全体を考えたときに不登法の權威を維持する為に必要。

稲葉支部長 位置づけは全て規約を守らなければならないので違反したときの罰則が怖

い。延岡はアンケートでは提出分全てが反対。受託契約をしないと違反になると心配している。

小柳支部長 位置づけをはずすと測量会社と同じになると説明しているが、除外希望が7名、5名がそのまま、3名はどちらでもいいと言う意見。

養原 延岡は全部はずす方向、小林は10:8ではずす、児湯は全部位置づけの方向である。理事会でも勉強会をして、今年度中に結論を出して欲しい。

松浦会長 この問題については、今後の会議の度に意見徴収して、支部の中でも何回か話す内に、少しずつ意見が浸透し理解が進むのではないかと。

落丸議長 ここで結論を出すことではありませんので、1年かけてゆっくり検討をして下さい。

(6) その他
落丸議長 14日に法務局と協議をするが、全地求積は他地区ではすでに実施されているのに日南地区が遅れている。

以上、本日の議事全ての審議を終了し、議長は午後5時閉会を宣した。

平成17年7月8日

宮崎県土地家屋調査士会支部長会

議長 落丸 正博

議事録署名者 養原 照 光

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

橋口 孝 治

平成17年度宮崎県土地家屋調査士 政治連盟定時総会議事録

1. 日 時 平成17年7月8日(金)
10:30~12:00
2. 場 所 調査士会館
3. 出席者 城協会長、松元幹事長、
役員及び代議員15名
来賓 県会松浦会長
4. 議長選出 松元幹事長は、本総会に代議員
19名中18名の出席があり、総会が成立すると
し、引き続き議長選出について議場に諮った
ところ、執行部一任となり、延岡支部長稲葉
博会員を議長に選出した。
5. 議事録署名者 上田敏文・岩元正昭代議員
6. 会長挨拶

城協会長は「業界では制度の変革期で大変だが宮崎では具体的な運動をしていない。活動は思うようにいかない年度であった。役員改選の年度であり本日は忌憚のない意見を述べて頂いて会が発展するようご協力頂きたい。」と述べ、来賓として出席した松浦県会会長は「各県会の活動は少ないが日調連では政治との関わりが活発で、調査士にとって有利な方向での「筆界」という言葉がたびたび出てきている。」と挨拶した。

7. 議 事

第1号議案 平成16年度活動経過報告について

城協会長は総会資料の会務報告に沿って説明を加えて報告した。平成16年度は特に活動が少なく平年の半分程度であったと述べた。

第2号議案 平成16年度収入支出決算並びに同監査報告について

鎌田会計責任者は総会資料を説明し、会費の未納があったが5月6日までに完納していると報告した。続いて山下監事は、証憑書類等間違いなく処理されていると監査報告をなした。議長は1号議案2号議案について議場に承認を求めたところ、満場一

致でこれを承認した。

第3号議案 平成17年度運動方針(案)の承認について

城協会長は「本案については昨年と同じ方針をとる。政治連盟は常に本会の指導下にあるべきで、突出した運動は慎むべきと考え、少しジレンマがある。会員の維持と7項目の運動方針を少しずつ前進するようにする。」と説明した。

第4号議案 平成17年度収入出予算(案)

鎌田会計責任者は、現在事務手数料として本会に年25,000円を支払っているが、他県の例を見ると10万円程度が適当な額ではないかとし、今年度の予算に計上した事を述べた。会費の徴収について自動振替のシステムが利用できないか。県会費に政連会費を上乗せして、徴収することで少しでも事務の軽減になると提案したが、自動振替については会員全員の了解がとれるかどうかとの意見で、当面各支部事務局で集金をすることにした。議長は第3号議案、第4号議案を一括して議場に諮ったところ、全会一致でこれを承認した。

第5号議案 役員改選について

稲葉議長は、政治連盟規約第6条により、役員改選の時期に当たるとし、その方法を、推薦か又は選挙かを議場に諮った。議場は推薦による改選方法とし、執行部は下記の者を候補者として提案した。

会 長 後藤 泰孝

副会長 鎌田 隆光

〃 城協 一男

幹事長 松元 光晴

副幹事長 稲葉 博

会計責任者 松崎 靖尚

会計責任者職務代行者 落丸 正博

監 事 三浦 英男 山下 尚喜

従来副幹事長は2名だったが、本年度は活動状況に合わせて1名とする。特に前会長城協一男氏には、今年度都城地区で県議

選があり、このからみで副会長として会長を補佐して欲しいと要請し、執行部に留任することになった。

以上の事項について稲葉議長が議場に立ったところ、全員一致でこれを承認し、本人達もそれぞれの役職の就任を承諾した。

つづいて、各代議員が個別に感想を述べ、最後に後藤新会長が「全調政連の政治的な動きを各会員に迅速に伝えるようにしたい。」と挨拶した。

以上1号議案から5号議案の承認と、新しい役員の選任をなし議長は午前12時00分閉会を宣した。

平成17年7月8日

宮崎県土地家屋調査士政治連盟総会

議長 稲葉 博

議事録署名者 上田 敏文

〃 岩元 正昭

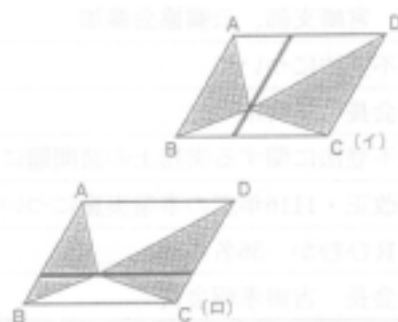


48平方センチ

たとえば上の図(イ)のように、平行四辺形ABCDを、左右2つの平行四辺形に分けます。色のついた三角形は、左右の平行四辺形において、その面積のそれぞれ半分です。

あるいは、(ロ)のように平行四辺形を上下2つの平行四辺形に分けてもかまいません。色のついていない三角形は、上下それぞれの平行四辺形の半分の面積です。それを全体から引けばよいのです。

ところで……、平行四辺形は、「底辺×高さ」だと知ってるんでしょうね？



研修会報告

● 平成16年度 第3回研修会 ●

1. 日 時 平成17年2月18日(金)
2. 場 所 宮日ホール (宮日会館11階)
3. 研修内容
 - ① (午前)「不動産登記法改正について」
講師 宮崎地方法務局 登記官
 - ② (午後)「司法制度改革と今後の調査士の展望」
講師 日調連会長 西本 孔昭 様

● 平成16年度 第4回研修会 ●

1. 日 時 平成17年3月3日(木)
午後1時30分～午後5時
2. 場 所 JA・AZMホール 2階
大研修室
3. 研修内容 「調査士を巡る環境の流れ」
講師 日調連講師
大阪会副会長 西田 寛 様

● 平成17年度 第1回研修会 ●

1. 日 時 平成17年4月8日(金)
午前10時00分～午後5時
2. 場 所 JA・AZMホール 2階
大研修室
3. 研修内容
 - ① 「(改訂版)調査測量実施要領」の解説
 - ② 「改正不動産登記法の解説」オンライン化に備えて
 講師 柳平 幸男 様
連合会 業務担当理事 岩手会所属

平成16年度 会務報告

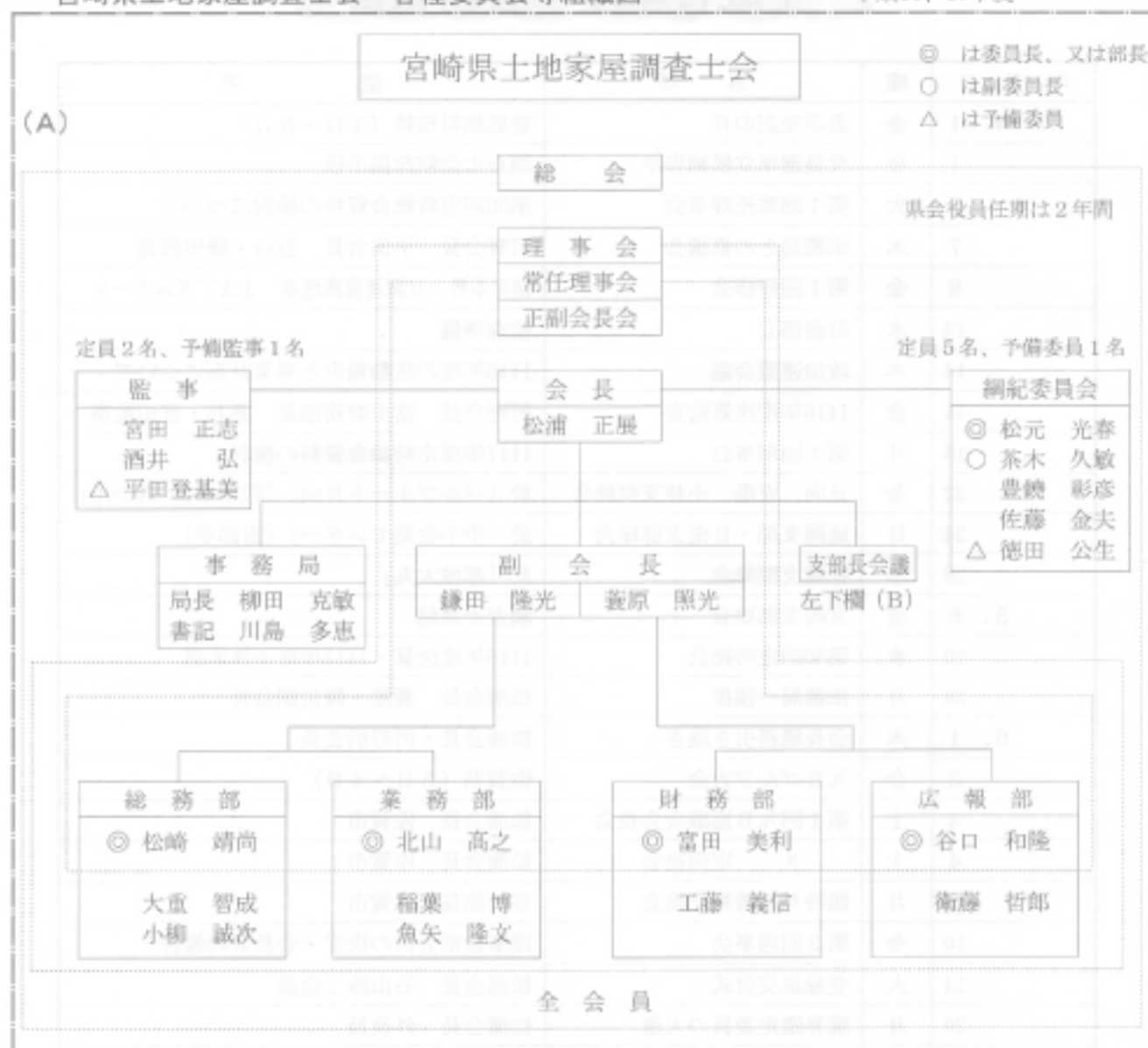
年 月 日	曜	事 項	備 考
17. 1. 4	火	ご用始め	法務局へ挨拶
11	火	第2回研修会	J A. A Z Mホール 日調連理事 柳下泰児氏 126名
11	火	第5回記念誌発行座談会	宮崎成雄・鬼塚總一郎会員・河野会長他
14	金	九B研究委員会	「地図研究セミナー」「筆界確定の法理」
14	金	賀詞交換会(税理士会)	平田副会長
16	日	第4回九B会長会	河野会長 東京
17	月	日調連臨時総会	河野会長 東京(17日～18日)
20	木	登録証交付四季	河野会長 崎村亮太会員
21	金	財務部会	H17年度予算計画
25	火	法務局との協議会	17条地図作成 谷口部長
29	土	第8回境界鑑定中級講座	K K Rひむか 41名
2. 1	火	登録証交付式	河野会長 小城信也会員
3	木	第4回境界鑑定委員会	鑑定講座の今後の予定について
4	金	第5回九B協議会会長会	河野会長 長崎市(4日～6日)
4	金	新人研修会	新人5名 長崎市(4日～6日)
8	火	第6回常任理事会	選挙管理委員の選定及び今後の日程
11	金	粒崎喜代市氏 受賞祝賀会	河野会長 長崎
15	火	九州財務局国有地 払い下げ事務打合せ	富田部長 福岡
18	金	第3回研修会	宮日ホール 日調連西本会長 140名
25	金	第6回記念誌発行委員会	竹下委員長 原稿の整理
26	土	第9回境界鑑定中級講座	K K Rひむか 41名
3. 1	火	登録証交付式	河野会長 妹尾英二会員
3	木	第2回支部長会	平成16年度業務報告
3	木	第4回理事会	選挙規則・職印証明書発行規則制定の件
3	木	第4回研修会	J A. A Z Mホール 大阪会副会長 西田 寛氏 133名
7	月	H16年度全国会長会	河野会長 東京
10	木	注意勧告理事会	付託事項の協議
10	木	改正不登法対策会議	県会、宮崎支部、公嘱協会参加
16	水	法務局との協議会	改正不登法について
19	土	第6回九B協議会会長会	河野会長 長崎市
25	金	第7回常任理事会	改正不登法に関する実務上の諸問題について
25	金	第5回理事会	会則改正・H16年度の事業実施について
26	土	第10回境界鑑定中級講座	K K Rひむか 36名
28	月	登録証交付式	河野会長 吉田孝昭会員

平成17年度 会務報告

年 月 日	曜	事 項	備 考
17. 4. 1	金	表示登記の日	登記無料相談（1日～8日）
1	金	役員選挙立候補告示	調査士会館前掲示板
5	火	第1回常任理事会	第50回定時総会資料の検討について
7	木	法務局との協議会	河野会長 平田会長 谷口・鎌田部長
8	金	第1回研修会	柳平幸男 日調連業務理事 JAアズムホール
13	水	財務部会	監査準備
14	木	政治連盟会議	H16年度の活動報告と事業計画について
15	金	H16年度決算監査	河野会長 富田財務部長 酒井・宮田監事
18	月	第1回理事会	H17年度定時総会資料の検討
22	金	日向、児湯、小林支部総会	於「ベルフォート日向」「四季亭」「西の川」
24	日	延岡支部・日南支部総会	於「中小企業センター」「服部亭」
28	木	都城支部総会	於「都城大丸」
5. 6	金	宮崎支部総会	調査士会館
20	水	第50回定時総会	H16年度決算・H17年度予算承認
30	月	法務局へ挨拶	松浦会長 養原・鎌田副会長
6. 1	水	会長職務引き継ぎ	松浦会長・河野前会長
3	金	九Bゴルフ大会	佐賀県（3日～4日）
4	土	第1回九B協議会会長会	松浦会長 佐賀市
4	土	〃 定例総会	松浦会長 佐賀市
6	月	臨時九B情報交換会	谷口部長 佐賀市
10	金	第2回理事会	理事役割分担の決定・会長会の報告
14	火	登録証交付式	松浦会長 石山淳二会員
20	月	境界鑑定委員の人選	松浦会長 外役員
23	木	日調連会長会	松浦会長 東京
24	金	日調連第62回定時総会	〃 〃
24	金	ADR筆界確定研究会	谷口部長 〃
24	金	綱紀委員会	松元委員長 付託事項の協議
30	木	広報部会	谷口部長 外4名
7. 1	金	財務部会	富田部長 松崎部長
4	月	政治連盟監査	三浦・山下監事
6	水	第1回境界鑑定委員会	これまでの反省と今後の展望
8	金	H16年度政治連盟総会	H16年度事業報告・収支予算・役員選挙
8	金	第1回支部長会	議長専任・経過報告と予定
16	土	九B第2回会長会	松浦会長 佐賀市（～17日）
19	火	第2回境界鑑定委員会	委嘱状交付 役割分担の決定
20	水	広報部会	県会会報編集
21	木	第2回常任理事会	公職協会との連携強化について

宮崎県土地家屋調査士会 各種委員会等組織図

平成16、17年度



(D) 紛議調停委員会

- ◎ (第一副会長) 鎌田 隆光
 ○ (総務部長) 松崎 靖尚
 宮崎支部長 上田 敏文
 副支部長 井上 洋之
 児湯支部長 橋口 幸治
 日南支部長 落丸 正博
 都城支部長 養原 照光
 小林支部長 小柳 誠次
 日向支部長 北山 高之
 延岡支部長 稲葉 博
 副支部長 高木 幹彦

(E) 苦情相談委員会

任期2年間
定員11名

- ◎ (第一副会長) 鎌田 隆光
 ◎ (総務部長) 松崎 靖尚
 宮崎支部長 上田 敏文
 副支部長 井上 洋之
 児湯支部長 橋口 幸治
 日南支部長 落丸 正博
 都城支部長 養原 照光
 小林支部長 小柳 誠次
 日向支部長 北山 高之
 延岡支部長 稲葉 博
 副支部長 高木 幹彦

県北小委員会

延岡支部長
同副支部長
日向支部長

県央小委員会

宮崎支部長
同副支部長
児湯支部長

県南小委員会

日南支部長
都城支部長
小林支部長

(F) 境界鑑定委員会

任期2年間
定員16名以内

- ◎ 白土 和明
 ○ 北山 高之
 ○ 松崎 靖尚
 谷口 和隆 鎌田 隆光
 金丸 敏雄 竹嶋 弘康
 川口 和美 若杉 盛二
 杉野 順一 假屋 憲幸
 外村 昭徳 徳田 公生

(G) 役員選考委員会

任期2年間
定員10名

- 宮崎支部 白土 和明 古川 人司
 上田 敏文
 児湯支部 橋口 幸治
 日南支部 工藤 義信
 都城支部 茶木 久敏 大重 智成
 小林支部 押川 三郎
 日向支部 安田 稔
 延岡支部 小畑 雅嗣

選挙管理委員会

(H)

任期は、役員改選年の前年暮れの理事会で、人選の承認を得て組成してから、選挙事務の取組みを開始し、当該選挙事務終了の時迄。

会員の動き

会員募集計画

(3)

会員募集計画

(7)

◎ 入会者



小城 信也

コジョウシンヤ

生年月日 昭和48年11月3日

事務所 〒 889-2161

宮崎市大字加江田3757番地

TEL 0985-65-1602

FAX 0985-65-1602

携帯 090-8769-0694

E-mail

入会年月日 平成17年2月1日

登録年月日 平成17年2月1日

登録番号 750号

公職協会

兼業

自宅 〒 889-2161

宮崎市大字加江田3757番地

TEL 0985-65-1602



妹尾 英二

セノオエイジ

生年月日 昭和30年9月24日

事務所 〒 880-0023

宮崎市和知川原3丁目84番地 トレジャーハウス黒木301号

TEL 0985-35-8530

FAX 0985-35-8530

携帯 090-9072-5025

E-mail e-senoo@nag-biglobe.ne.jp

入会年月日 平成17年3月1日

登録年月日 平成17年3月1日

登録番号 751号

公職協会

兼業

自宅 〒 880-0023

宮崎市和知川原3丁目84番地

TEL 0985-35-8530

トレジャーハウス黒木301号



吉田 孝昭

ヨシダタカアキ

生年月日 昭和35年4月9日

事務所 〒 880-0013

宮崎市松橋1-5-27 KMビル5F

TEL 0985-88-7783

FAX 0985-39-0421

携帯 090-9654-6326

E-mail

入会年月日 平成17年3月22日

登録年月日 平成17年3月22日

登録番号 752号

公職協会

兼業

自宅 〒 880-0121

宮崎市大字島之内10533番地2

TEL 0985-39-0421



石山 淳二

イシヤマジュンジ

生年月日 昭和45年6月14日

事務所 〒 889-1603

宮崎市旭1丁目6番15号

TEL 0985-26-1979

FAX 0985-26-6078

携帯 090-4580-0714

E-mail

入会年月日 平成17年6月10日

登録年月日 平成17年6月10日

登録番号 753号

公職協会

兼業

自宅 〒 889-1603

宮崎県清武町正手1丁目33番地

TEL 0985-85-1757

	高岡 宏文		タカオカヒロフミ	生年月日	昭和35年11月8日
	事務所 〒 886-0212		西諸県郡野尻町大字東麓1147番地 5		
	TEL 0984-44-2862		FAX 0984-44-2862	携帯 090-4999-8947	
	E-mail				
	入会年月日 平成17年6月21日		登録年月日 平成17年7月20日		
	登録番号 754号	公職協会	兼 業		
	自宅 〒 886-0004	小林市大字細野1353番地 1			
	TEL 0984-22-2801				

※各自破線より切り取り、会員名簿に貼付して下さい。

◎ 登録事項変更

氏 名	変更事項	変 更 後
中 嶋 宏	事務所	宮崎市吾妻町21番地 4
松 本 基 則	事務所	児湯郡川南町大字川南13675番地83
小 林 祥 治	事務所	東臼杵郡門川町大字門川尾末9166番地 3
隈 雅 彦	住 所	宮崎市霧島 3 丁目170番地 2

◎ 退 会 者

年 月 日	氏 名	支 部 名	事 由
2月25日	渡 会 義 博	宮崎支部	退 会
3月29日	岩 下 卓	日南支部	廃 業
5月30日	大 平 勲	児湯支部	廃 業
6月22日	高 岡 満	小林支部	死 亡



編 集 後 記

2005年経済財政白書が発表された。それによると、バブル崩壊後の不況はようやく終焉しつつあるが、新たな問題があるという。いわゆる2007年問題である。

2007年、団塊の世代が、つぎつぎと定年を迎え、現役を退くことに起因する種々の問題が予想されているのである。

戦後の日本の成長を支え伸ばし続けてきた人たちの大量退職が、いかなる影響を社会に及ぼすかをあげると、プラスの点としては、高賃金の社員が退職することで、賃金負担が軽減した企業は経営にゆとりが生まれる。また退職した人たちが貯蓄を取り崩す生活に入ることによって消費への経済効果が期待できる。マイナスの点としては、それらの人たちの再就職、退職一時金の増加、熟練した技能や知識の損失があげられるらしい。

企業としてはこの熟練した技術・知識の喪失が一番の問題で、いわばそれは団塊の世代が培ってきた時間がそっくりそのまま抜け落ちることである。そのための対策として、社員教育カリキュラムを改善し、退職した人と一時的に再雇用して、技術を伝承してもらう企業もあるそうである。

そんな新聞記事を見て、ふと先日東京であった測量展を思い出した。

数年前の測量展は、行く度に何らかの感動を覚え、随分と頭が良くなったと錯覚をするような講演もあったし、測量技術者として、夢を持てるような内容であったものだが、ここ2年ほど前からは、何故かそんな感動がなくなってきたのだ。明らかに内容が変わったという気がしてならない。

確かに今は測量機械が良くなり、簡単に手軽に精度よく測量ができるようになった。熟練した技術は全く必要なくなっている。それはつまり、測量に関しては「私」でなくてもいいのだ。

何の測量の知識のないアルバイト学生でも測量はできるのだ。測量展での展示内容やその解説によると、どうやら今必要なのは、コンピュータを使う技術やコンピュータの知識らしいのだ。コンピュータやそのソフトの向上で便利で楽になったことは事実である。また、コンピュータで大抵のことは出来るようになり出来ないことを探す方が難しくなっている。しかし逆から言えば、何から何まで全て自分でやらなければならなくなった。コンピュータが苦手な私にとってそれは拷問に近いものがある。

操作方法が解らないときには、昔あったような取扱説明書ではなく、「ヘルプ機能」である。だが、ヘルプを開いてもその意味がまたヘルプ状態で、日本語で説明されてあってもまるで英語を読むような気分である。

随分と話が飛んでしまったが、つまり私たち土地家屋調査士にとっては、2007年問題で話題になっている技術の伝承は、さみしい話ではあるが当てはまらなくなっているのが現実である。では団塊の世代の方のように社会に再認識してもらえるものは何があるのか。

賢明な皆様はもうおわかりと思う。それは知識のみである。それしかない。自己研鑽に励むことが必要である。

調査士法25条がなくても、いつの時代、どんな時代であっても資格者は知識の習得に努める事は必要なのであろう。いや、資格者としてでなく、人生として学習は必要なのだろう。

広報紙に対するご意見、ご感想、話題のご提供をお願いします。

(広報部長)

〒880-0803 宮崎市旭2丁目2番2号
宮崎県土地家屋調査士会
TEL(0985)27-4849/FAX(0985)27-4898

発行人 松 浦 正 展
編 集 広 報 部

